

# 酒々井町郷土研究会々報

第72号

平成6年4月1日発行  
酒々井町郷土研究会  
編集部

## 佛像考 (その二)

青木朝次

佛像はいかに何かを語りかけてきます。にこやかな笑顔で子嬰達と遊ぶお地藏さん。極楽浄土に導いて下さる阿弥陀様。諸々の疾を癒してくれる薬師様。そして災難から人々を護り救って下さる観音様など数多くの佛像があります。同じように見える佛像にも階級や位の上下が定

められています。一番の上位が如来、二が菩薩、三に明王、四に天、五に羅漢雜尊といわれています。順序として今回は最上位の如来について少し述べて見ます。

如来とは悟りを開いた覺者(佛)をいい「真如来生」を略したもので、真如とは真実、衆生とは真実の世界より生まれて来ることを意味します。佛とは本来最上位の如来だけに許された尊称でしたが、いつの間にか佛像全体の呼び方にも変わってしま

### 印相

印相は印、簡契ともいい、仏像の手の様々な形をさす。インドでは古くから手指で種々の型をつくり意思をあらわす風習があり、それが仏像にも反映して仏の状態や個別を示す標識となった。この印の型により仏像の尊名を判別する場合が多く、特に重要である。



**施無畏印** 与願印  
与願印は外掌して五指を下に向け、施無畏印は右腕を屈折し掌を正面に向ける。

**法界定印**  
法界定印ともいい、胎藏界の大日如来が結ぶ。両手を膝上に組み、左右の第一指を接する。



**阿弥陀定印**  
両手を膝上に組み、左右の第一・二指を結ぶ。

**来迎印**  
阿弥陀如来が来迎する時の印。両手とも第一・二指を結び、右手をあげ、左手を垂下する。五指を開くこともある。

**堅実心合掌印**  
金剛合掌印



**降魔印**  
降魔印、触地印ともいう。右掌を伏せたまま膝下へ垂らし地に触れる。魔障が魔度の誘惑をしりぞけた時の印。

**降三世印**  
降三世明王が降魔に結ぶ印。降三世明王は五大明王中の東方尊として、不動明王に次いで重要視される。

**結法輪印**  
結法輪印ともいう。両手を胸の辺におけ、右掌を外に、左掌を内に向け、左右とも第一・二指が第三・四指を包む。

(図1)



阿彌陀如来坐像 (平野町福徳堂、京都府) 鎌倉時代、青木道

(図4)



釈迦如来坐像 (大阪 興善寺 鎌原)

釈迦如来立像 (東京 大圓寺 鎌倉)

(図3)



(図2)

す(図1)。印相は文字では判りにくいので図を参照してもらいます。

へ釈迦如来へ(図2.3) 悟りを開いた釈迦が大衆に教えを説く説法像が最も一般的ですが、右手は施無畏印(人々の不幸をのぞく)、左手は与願印(願いをかかえる)のいわゆる説法印を結んでいます。

へ阿弥陀如来へ(図4) 立像は説法印、来迎印を結び、坐像は阿弥陀定印を結んでいます。坐像には善光寺式三尊佛といわれる右に観音、左に勢至の両菩薩を従えたものや九品佛といわれる九体のものがあります。

衆生の願いはさまざまで、人間の死や、病氣などから逃れたいという具体的誓願によって大日・釈迦・阿弥陀・薬師などの如来が出現しました。そのお姿は必ず蓮華座の上に坐すが立っていても法衣以外のものはつけていません。(例外的には大日如来に宝冠を着けたもの、薬師の左手の薬壺等があります。)頭部には肉髻(佛の頭頂に髻のように突起している肉の塊)・螺髮(ぶつぶつに丸まった毛)があり、手の指と指の間には水掻きがあります。これらの佛を見分ける鍵は、両手がどんな形をしているかです。これを印相といま



法界定印 (法界寺、奈良県) 白鳳時代、木造

(図7)



法界定印 (元興寺、奈良県) 聖徳太子時代、木造

(図6)



大日如来像 (円成寺、奈良県) 宇治時代末期、木造

(図5)

△大日如来(図5) 胎蔵界大日如来は悟りの境地を示す法界定印を結び、金剛界大日如来(図5)は右手が佛、左手が大衆をあらわす智拳印を結んでいます。

△薬師如来(図6・7) 右手は施無畏印、左手は薬壺を持っていきます。単体のもの、日光・月光両菩薩を従えた三尊形式のもの、十二袖将を従えたもの、七佛薬師といわれる七体揃ったものもあります。(図7)は薬壺を持っていませんが右手の薬指が少し前方に屈しています。(次号につづく)

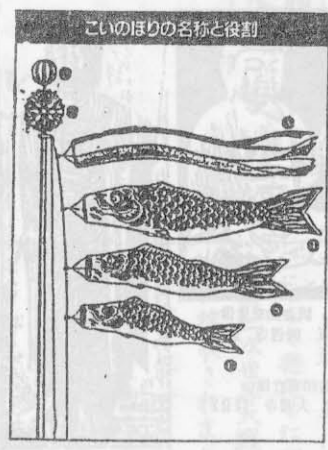
こいのぼり

金杉 焔

樹冠いっばいに群がる楼の花  
尺は、風の一撃を受けると、青い青い空へとうずを巻いて舞いあがった。

花びらがゆらゆらと舞い降りてゆく先に、早くもこいのぼりが泳いでいる。そのあざやかな色。のびやかな姿。魚を大空に泳がせることを、いったい、それが考え出したのだらう。すばらしい想像力、というほかない。端午の節句、昔は節会といっ

て宮中で宴会を催した。端午は平安時代の五節会の一つ、古くから中国、朝鮮半島、日本に伝わる節句である。そして、月の初めの午の日のこと。中国では五月が午の月に当たると。五を重ねて五月五日を節日とした。節は五月にしく月はなし。菖蒲・蓬などのかをりあいたる、いみじうをかしく(清少納言・枕草子)。この日と切っても切れないのが菖蒲である。その強烈、独特な香りが邪気を払うと考えられたためか、菖蒲は重要な役割を演じる。菖蒲酒、菖蒲湯、髪飾り……蓬とともに軒に挿す風習も残る。あかね色の衣を脱ぎ捨てた無数の若衆が競いあうようにして、太陽をつかもうとしているこの時、病魔や邪気を除きたいとの願いは切実だったのだらう。この日はまた、競馬、騎射、石合戦、競漕等の競技や練武の行事の日でもあった。菖蒲のさまざまな飾りが登場、勇壮の気をかきたてる。まさに、尚武。尚武の節句とばかり、江戸時代、武家の玄関前には、家紋つきの旗差し物、のぼりなどを飾ることが流行した。対抗して、町家が男子の出生を祝い、将来を祈って立てた鯉絵の出世のぼりがこいのぼり、昔を今に翻る。



- ①回転球：さおの先の回転球は太陽を表す。昔は竹でつくることもあったという。
- ②矢車：八本の矢で構成される矢車は方位を表す。鬼門、裏鬼門からの厄災を絶つのが役目。
- ③吹き流し：緑・紅・青・黄などの五色からなる。中国宮廷で使われた五色の飾り糸説、登龍門の急流に見立てたという説など諸説ある。
- ④まごい：真鯉、黒いこいの総称。形は大きくとも、竜に変身する前の子どものこいを表す。
- ⑤ひごい：胡鯉。まごいの変種とされ、飾りなどカラフルなこいのこと。まごいとのペアとして登場した。
- ⑥三四日以降はこれといった意味はないが、こいを旗子に見立てることで加えられた。最近では四四、五四飾ることも多い。

羽田新空港、川崎大師  
見学会に参加して

伊藤孝愼

羽田新空港、川崎大師にまだ一度も行っていない。この計画を知り、参加させて貰うことにした。

この日は曇空、京成酒々井駅八時二十五分集合、もう多勢の参加者が集まり、予想よりも遙かに上回り、嬉しい悲鳴と役員の方が人員の把握に大変だった。この様な計画をする度に見に行き、準備に万全を期して、

苦勞をされると聞き、人知れぬ役員のご苦勞に感謝せずにはいられない。よく参加されている人達であろうか、挨拶の言葉のはし、その表情に自然と生まれ、た和やかな人間関係を伺い知ることが出来る。一時間余で大門駅に着きモノレールに乗り換える。乗車前に班毎に人員の掌握がなされ、会田会長の挨拶、青木副会長の行程の説明、注意等があり乗車、空港駅に到着した。先づ空港の建物の規模の大きさに驚く。十二時五十分まで自由時間、友人とエレベーターで屋上まで昇り屋外に出た。風が強くなり早々に引きあげ食堂に入り窓越しに飛行機の飛び立つのを眺めながら食事をした。その後集合時間に合わせながら階段を下り各階の商店を覗いて歩く。空港駅の次の駅羽田で京浜線に乗り換え、蒲田、川崎で乗り継ぎ大師線の大師駅で降りる。山門に通ずる両側に土産物の店が並び、トントンと威勢のいい響きが耳を打つ。鈴を切る鉦の音が……。名物のくず餅の老舗も並ぶ山門前で自由解散となり、各自、おもしろいに参詣をした。関東有数の霊場だけあって建造物の立派さ、特に色彩鮮やかに空に映し出されている五重の塔が印象に残った。

九十九里  
七福神めぐり

永井 逸子

今年の一月に入会し、初めて参加する見学会。先輩諸氏の皆さんと和やかにバス旅行ができて楽しいだろうと安易な気持ちで参加申し込みをしました。まさか若輩の私に原稿の依頼があるとは予想だにしないので、稚拙な内容で申し訳なく思いますがパンを執りました。

当日は、夕べの名残り雨が朝の空を不安げに覆っていました。バスが出発してからは少しずつ空も明るくなり、私達もそれにこれ期待に胸が膨らんできました。月蔵寺の大黒天をまわる頃は雨足も傘が要らないほどに回復しました。改築したばかりの光明寺では、ご住職の講話を受け賜りました。また、真光寺の柔和な顔の布袋尊はとても親しみやすく、七福神の中でも私の大好きな神様の一人です。この三月は我が家にとっては、ちよっとした予想外の不運に見舞われたこともあり、歴史の中

に脈々と受け継がれてきた人々の敬虔な祈りを、謙虚に七福神巡りの中に思いうことができました。

そして、何にもまして楽しかったことは、伊藤左千夫生家での写真撮影、浪切不動尊の植木市での年代の違う皆さんとのふれあいでした。昼食をとった蕎麦屋で席料



一人百円を徴収され今時珍しいね、とお互い顔を見合わせたのも愉快な思い出になりました。帰りはずっかり木降りになっしまいました。あつという間の楽しい一日でした。

史跡文化財愛護活動に  
奉仕してください

有形無形の文化財のうち、野外にある上岩橋貝層、伝説の横穴古墳群、旧街道筋の松並木などを守るための清掃作業を年二回行っている事は皆様よくご存じのことと思います。

伊藤の松並木の松は枯れて並木の形態はなく、努力して若木を植えかえ植えかえして、害虫、排気ガスにより弱くなかろうようには育ちません。又、墨の、さらしなし、ようま、一植物一野生地では、年々減少し、とうとう全部消滅してしまいました。自然の猛威には叶いませんが、私達の力が弱かったことも否めません。

弱いながらも及ばずながらも活動はつづけなければなりません。今年も四月二十二日(金)、雨天代替は翌日の四月二十三日(土)に一回目の草刈り清掃を行います。是非参加してください。せめて名勝探訪に集まるくらいは多数の参加を心待ちにしております。

Table with columns: No, Date, Content, Number of Participants, Date, Content, Number of Participants. It lists various activities like '平成5年度会計監査', '編集会議', '定例運営委員会', etc.

Accounting Report (会計報告) table showing income and expenses for two events: '七草粥を食べる会' and '七福神めぐり'.

平成6年度第十八回 定期総会報告

平成六年一月三十日(日)午後一時三十分より酒々井町中央公民館講堂に於いて第十八回定期総会を開催いたしました。

町長さん、教育長さんの御臨席をいただき、百十九名の会員の出席を得まして、平成五年度の事業報告、決算報告、平成六年度の事業計画・予算案等の審議が行われ、満場一致で承認され滞りなく終了いたしました。

尚、この郷土研究会総会が一般の会計年度(四月〜三月)で行われず、暦年の一月にして

いる理由は何故なのかという質問がありましたが、格別の理由はないが、郷土研究会が発足し初会が昭和五十二年

一月二十三日に開催されて以来、一月に行われる伝統を守り継承今後変更する事はありませんと

会長が答弁いたしました。運営委員に新しく選任された市川英子さんが紹介されました。

活躍が期待されます。最後にクさわやかハートクラブのPRがあり、閉会となりました。

平成5年度事業報告書

(総会資料より抜粋)

Table with 3 columns: 事業名, 説明, 参加者数. Lists various activities like '町内史跡めぐりハイキング', '見学会', '史談会', etc., with dates and participant counts.

Table with 12 columns: 事業名, 説明, 1月, 2月, 3月, 4月, 5月, 6月, 7月, 8月, 9月, 10月, 11月, 12月. Shows the monthly schedule for the '平成6年度事業計画'.

Table with 7 columns: 役名, 氏名, 住所, 電話, 役名, 氏名, 住所, 電話. Lists the names and contact information of the '酒々井町郷土研究会平成6年度役員・運営委員'.

見学案内

一泊見学会 5/8(水) 5/9(木)

東京から上越新幹線で浦佐まで約一時間半、バスに乗り換え二時間半かけなければ行くことのできない奥只見方面に、新緑にふれ越後の史跡をもとめて酒々井からバスの旅です。

◎奥只見湖・奥只見ダム

尾瀬沼を源とする只見川をせき止めて作られた奥只見ダムは、昭和三十七年の完成であり、ダムにより作られた奥只見湖と、この周辺、湯之谷、枝折峠、銀山平は、今から八百年以上の昔、平清盛と時の御妃をめぐって三角関係に陥り敗れた尾瀬三郎、藤原頼国等の悲恋物語や、今は只見湖底となった昔日の銀採掘により隆盛を極めた村の物語があるところです。(遊覧船に乘ります)

◎西福寺大浦開山堂

この寺は曹洞宗で、天文年間(四五〇余年)開祖芳室祖春大和尚で、本尊は阿弥陀如来三尊で、中尊の阿弥陀如来像は上品上生木心乾漆の奈良時代作といわれ名作である。此の他、開山堂の彫刻梵鐘、鐘樓等美術品の価値があり、新潟

県の重要文化財となっている。

◎目黒邸

目黒家は戦国大名の会津藩名臣に仕え、伊達政宗と戦の後、天正十八年この越後の国北魚沼の広瀬谷の地で帰農したと伝えられる中世武士の系譜をひく豪農である。この住宅は、寛政九年(約二〇〇年前)に十一代五郎助が建てた割元庄屋(大庄屋職)の役宅をかねた豪農住宅で貴重な遺構である。

◎玉川酒造株式会社

三百三十年前に酒造免許を得て以来、目黒邸で酒造りが行われていたが、大正元年現在の場所(酒蔵)に移り玉川屋を創立し、大正十二年に玉川酒造(株)となり、初代社長に目黒家十七代家長目黒文平が就任した。そして、昭和二十八年玉川酒造(株)に改め現在に至っている。

◎水沢観音

創立は推古天皇の時代で、開基は恵灌僧正、本尊は千手観音、山門の仁王尊の背後には、五鳳十雨を願う風雷神が祀られ上毛地方の寺という印象をうける。

都合により行程の一部変更することもあるかもしれませんが、ご諒解下さい。

名勝探訪

(雨天代替 5/6(金))

〈亀戸天神方面〉

紫の花房が風にゆれる姿のあでやかな藤の季節、藤見をかねて探訪します。京成酒々井から西船でJRに乗り換え錦糸町で下車、精工舎へ、ここでゆっくりに時計の見える工程を見学し、江戸時代から学問の神様として信仰を集めた、藤の花の咲く季節には花見客でにぎわう亀戸天神へ行きます。近くには「ぬれま行く、人もおかしや雨の敷」と芭蕉の句の残るハギ寺として有名な龍眼寺や、「野菊の墓」の作者伊藤左千夫の墓のある普門院や、江東区内最古の神社で、亀戸の地名の由来や武將の崇敬厚いとされる香取神社などがあり、陽気のよい一日を皆さんでゆっくりに散歩してみましよう。

名勝探訪

(雨天決行) 6/3(金)

〈行徳、新浜鴨場方面〉

宮内庁の御旗場を見学します。宮内庁の御旗場を見学します。で申し込み定員五十名で実施します。当日参加は出来ませんのでご注意下さい。

◎新浜鴨場

宮内庁が管理しており、皇室が外国より使節が御見えになったときに親善のためによく使われるところです。

◎徳願寺

徳川家康の帰依寺で、もとは埼玉県鴻巣市の勝願寺の末寺(草庵)で、徳川の「徳」と勝願寺の「願」とをとり徳願寺と名付けられた。この寺には、宮本武蔵の供養塔、武蔵の書と達磨図、運慶作といわれている閻魔大王像、円山応挙の幽霊の絵等、多数の寺宝がある。

◎法善寺

慶長五年(一六〇〇)宗玄和尚の開基で、この宗玄は、関西の人で海岸や荒地を開拓して塩田をつくらせて塩焼の製法を里人に教え、行徳塩の発祥地として有名です。



郷土研行事業内

平成6年4月～6月

	4月	5月	6月	
史談会	9日(土) 午後1時30分 「酒々井町の石仏と文化財」 中央公民館会議室 (伊篠新田地区)	14日(土) 午後1時30分 「酒々井町の石仏と文化財」 中央公民館会議室 (中川・柏木地区)	11日(土) 午後1時30分 「酒々井町の石仏と文化財」 中央公民館会議室 (下宿・中宿地区)	
名勝探訪 野草の会	4月 26日(火) 雨天中止代替 5月6日(金) <b>名勝探訪 平井・亀戸方面</b> 集合時間 京成酒々井駅 8:25 京成酒々井駅→西船→JR西船橋 →錦糸町下車→精工舎→菟寺(龍崎) →亀戸天神(昼食)→普門院→ 香取神社→平井聖天→JR平井駅 →西船橋→京成西船→京成酒々井駅		5月 28日(木) 午前11:30 <b>山菜を食べる会</b> 申込受付 4月8日(金) 9:00 受付場所 公民館ロビー 費用 700円 定員 80名 キャンセル 実施日☆ロビー 連絡先 会田宅 お手伝いの方は9:00までにお出下さい。	6月 3日(金) 雨天決行 定員 50名 <b>名勝探訪 行徳方面</b> 申込受付 4月8日(金) 9:00 受付場所 公民館ロビー 定員 50名 集合場所・時間 京成酒々井駅 8:25 京成酒々井駅→西船→JR西船橋→行 徳→新茨鷺場→徳願寺→法善寺→ 行徳→JR西船橋→西船→京成酒々井 行程変更する場合もありますので御了承下さい。
	史跡文化財 愛護活動	4月22日(金) 雨天代替 4月23日(土) 活動現地 (1) 上岩橋貝層 (2) カンカン口横穴群 草刈り、清掃用具持参の上ご協力下さいますようお願い申し上げます。	午前10:00 現地集合 (3) 伊篠松並木 (4) 古松碑	現地分らない方は 会田宅(496-4861) までご連絡して下さい。 (前日まで、夜間も可)
町内史跡めぐり ハイキング (教育委員会共催)	5月22日(日) 雨天中止代替日 5月29日(日) <b>町内史跡めぐりハイキング</b> (自由参加) 集合場所 京成酒々井駅 <b>コース</b> 京成酒々井駅(9:00出発)→大鷲神社(上岩橋)→新光寺(柏木)→及び →下岩橋の双体道祖神→大仏頂寺(八社神社・光聖和尚の墓)→ 七社神社→下岩橋青年館(昼食)→岩橋城跡→弁天山→ 宗吾参道駅(解散)			
1泊見学会	5月18日(水)～5月19日(木) <b>越後奥只見湖方面</b> 出発時間 公民館前 7:30 行程(5/18) 酒々井(7:30)→湾岸高速→小菅→三芳→ 石打(昼食)→銀山平→奥只見(遊覧船) →シルバライナー→大湯温泉(泊) <b>大湯グランドホテル東栄館 TEL 02599(5)2311</b> (5/19) 大湯→大瀬開山堂(西福寺)→目黒邸→玉川 酒造→小出(昼食)→汝川→水沢観音→ 前橋→湾岸→佐倉→酒々井(12:00)			

今回は上岩橋・柏木・下岩橋  
方面の歴史自然にふれます。

▼上岩橋  
大鷲神社と古墳  
最近この古墳から石  
枕が発見され、利根川  
古墳群と関連があるこ  
とが判明。

▼柏木  
新光寺  
墓地内の小  
堂の伝説徳  
子像は善職太  
童子像とが師  
六地藏は別名  
丸形地蔵立像  
で酒々井町一番の作  
七社神社と双体道祖  
神二基  
七社神社は柏木の鎮  
守さま、双体道祖神は  
享和二年(一八一〇)と  
昭和八年に造立され  
二基

▼下岩橋  
双体道祖神とみく  
り・自生地  
丸形僧形双体道祖神  
は日本中で酒々井町だけ  
の貴重なもの。みくり

暖冬といいたがう雪に  
なったり雨になつたり  
して、ようやく桜の季  
節になりました。  
お変わりございました  
か、一年中で一番寒い  
如月が二月のようです。

今更着て寒さ  
をしのぐ、衣更着しか  
らきた言葉のようです。  
もう三月も終りです。  
体に気をつけて、新し  
い郷土研行事に皆さん  
で元気に参加していら  
す。

はみくり科のみくりで  
平成二年五月に佐倉市  
の植物に詳しい木本先  
生が見つけられ、現在  
聖の総合公園の池に保  
護されている。  
・大佛頂寺(八社神社と  
光聖和尚の墓)

大佛頂寺の本尊  
は大日如来。寺  
は「舌出しの鈴」が  
ある。八社神社  
は八社を合祀し  
た神社。光全和  
前は、木内宗吾  
郎が直訴で処刑  
される時、宗吾郎  
の末の子を抱いて逃げ  
入水した。  
・岩橋城跡(中世の城跡)  
城主年代共に不詳。小  
さいけれども立派な城  
の形を残している  
・弁天山  
もと岩橋城の見張り  
台とか、弁財天は池、  
強湿田等の守り神とし  
て祀られることが多い。  
宗吾参道駅で解散します。  
約一キロの道のりを江戸時代の  
町に思いをはせながら、ゆくり  
歩きましょう。

町内史跡めぐり  
ハイキング  
5/22 雨天代替 (日)  
5/29 (日)